

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

アヲハタ株式会社ジャム工場

(2) 事業所の所在地

広島県竹原市忠海中町一丁目2番43号

(3) 業種

0931 野菜缶詰・果実缶詰・農産物保存食料品製造業(野菜漬物を除く)

(4) 事業所位置図

別紙6ページのとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、2023年度を基準年度とし、目標年度を2024年度の1年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

アヲハタグループは、瀬戸内海の豊かな自然に育まれた「みかん」などの柑橘類の加工・販売を目的に、1932年に広島県竹原市で創業しました。私たちはフルーツの持つ美味しさ、香り、色彩、栄養、機能などの魅力を様々な角度から提供することで、楽しく豊かな生活シーンを彩ります。また自然の恵みを資源とし、国立公園内に立地する企業として、将来に向けて持続可能な社会や環境への取り組みを継続し地域・社会から信頼される事業活動を進めてまいります。

2 方針

(1)アヲハタグループの事業活動・製品及びサービスに係わる環境関連法規・規則・協定およびアヲハタグループが同意するその他の要求事項を順守します。

(2)アヲハタグループの事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに、持続可能な資源の利用や生物多様性の確保等を考慮した環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

(3)アヲハタグループは、環境目標を設定して全構成員で環境保全に取り組むとともに定期的な見直しをします。

(4)事業計画と連動した本来業務の中で以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。

①地球環境や人々の健康に配慮した原材料を選択し、持続可能な果実原料の調達および省資源に配慮した商品の提供に努めます。

②廃棄物の削減、再利用再資源化を推進し、高度処理に努めます。

③事業活動におけるエネルギー消費量の削減に努め温暖化防止に貢献します。

④地域の環境保全活動を積極的に推進します。

(5)環境方針は、全構成員に周知徹底します。また社外にも開示します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和5(2023) 年度	令和5（2023） 年度
二酸化炭素	4,138	4,138

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ） 年度	令和（ ） 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ） 年度	令和（ ） 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス （ HFC PFC SF ₆ NF ₃ ）		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和 5 (2023) 年度)	削減目標		目標年度 (令和 6 (2024) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	4,138	1.0	41	4,097
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計	4,138	1.0	41	4,097
温室効果ガス みなし排出量		—		4,097
目標設定の考え方	昨年対比 1 %/年 削減			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

生産数量(t)

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量（kg等）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和 5 (2023) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 6 (2024) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	4,138	10,908	0.38	0.0	4,097	10,908	0.38
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量	4,138	10,908	0.38	0.0	4,097	10,908	0.38
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	—	—		0.0	—	—	
目標設定の考え方	昨年対比 1 %/年 削減						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	電気使用量原単位 1 %削減	空調機の電力削減制御機器取付。太陽光発電パネルの設置。
2	燃料原単位の削減	L P G使用量原単位 1 %削減	省エネパトロールにより、蒸気漏れの早期発見。
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制

ISO環境マネジメント組織を作り体制を組んでいます。
具体的には統括責任者・内部環境監査者・環境管理責任者・各部署の担当者・省エネワーキンググループ等組織を作り環境改善活動をしています。
また、定例会議としてISO環境委員会を開催し、各部署目標の進捗管理・状況などの共有化を行っております。

(2) 実施状況の点検・評価

省エネ、省資源活動の取り組みにて、温室効果ガス削減計画の取り組み状況の把握・点検及び問題点の検討を行うとともに、定期的に評価、見直し等を行い継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

- ・アラハタグループ社会・環境報告書にて、削減状況等掲載
- ・ジャム工場環境データベースにて、計画及び結果を掲載